

新町小学校だより



～かしこく こころゆたかに
たくましく生きる 新町の子～



学校ホームページ

令和7年度 第9号

令和7年10月9日

津市立新町小学校

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から(6年)

4月17日(木)に6年生を対象に「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。今年度は国語・算数・理科の3教科で実施し、先月、その結果が学校に届きました。本校の6年生は、以下に示す通り、3教科とも、県平均・全国平均を上回る結果となりました。

	平均正答率		
	国語	算数	理科
新町小			
三重県			
全 国			

<国語・算数・理科の学力調査の結果から>

国語においては、「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」と「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」で県平均を下回りましたが、「知識及び技能」の残りの2観点と「思考力、判断力、表現力等」の残り2観点全てで県平均を上回りました。その中でも「知識及び技能」の「情報の扱い方」は10.3ポイント、「言葉の特徴や使い方」は5.9ポイント、「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」は4.7ポイント、県平均より上回っていました。

算数においては、学習指導要領の内容の5観点全てで県平均を上回りました。その中でも「図形」は10.5ポイント、「測定」は5.0ポイント、「データの活用」は3.1ポイント、県平均より上回っていました。

理科においては、学習指導要領の内容の4観点全てで県平均を上回りました。その中でも「エネルギー」は9.3ポイント、「地球」は5.6ポイント、「粒子」は3.8ポイント、県平均より上回っていました。

記述式の問題形式での正答率も県平均より、国語は2.6、算数は6.5、理科は7.6ポイント上回る結果が出していました。

3教科とも県・国平均を上回っている観点がほとんどで、平均よりも低い2つの観点でも、4.0ポイントと0.1ポイント低いという結果でした。学力調査の結果から、子どもたちが学習に頑張って取り組んでいることがうかがえます。

<国語・算数・理科についての児童質問紙から>

県平均と比べ、ほとんどの項目で**肯定的回答をした児童の割合が高い結果**が出ました。いくつか抜粋して紹介します。（*肯定的回答とは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）

- ・国語の勉強は好きか(+10.2)
- ・国語の授業内容はよく分かるか(+6.4)
- ・国語の授業で目的に応じて伝える内容を考えているか(+4.6)
- ・国語の授業で目的に応じ必要な文章を読み、図表と結びつける等しているか(+4.9)

- ・理科の勉強は好きか(-0.9)
- ・理科の授業内容はよく分かるか(+7.8)
- ・将来、理科や化学技術に関する職業につきたい(+12.0)
- ・理科の授業で学習したことを普段の生活に活用できているか(+14.2)

- ・算数の勉強は好きか(+10.9)
- ・算数の授業内容はよく分かるか(+6.7)
- ・解き方が分からぬ時、あきらめずにいろいろな方法を考える(+7.7)
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活に活用できているか(+8.3)

このような結果から、国語や算数・理科の授業の内容をよく理解し、学習活動に積極的に取り組んだり、自分なりに工夫したりしている子ども達が多くいることが分かります。

子どもが主体となって学び合う授業

本年度の学力調査の結果や普段の授業の様子から、6年生の子ども達が国語や算数・理科等の授業に意欲的に取り組み、疑問や問題意識をもって粘り強く学ぼうとしており、その結果、学力も定着していると判断することができます。これは、日々の授業が、以前のような教師の説明を静かに聞き、教師が言う正解を覚えたり黒板に書いたことをノートに写したりといった一斉授業中心から、タブレットや様々な資料等を活用しながら、追求したい問い合わせに主体的に関わり、友だちとともに学び合うスタイルに授業を変えてきている結果が表れています。

授業の中で、子ども達に自分が追求したい問い合わせをはっきり持たせて、友だちと考えを共有したり、違う考え方の友だちと意見交流したりする場を設定することで、子ども同士の学び合いが推進され、「わかった」「なるほど」「できた」といった声が子ども達から聞こえています。こういった子ども同士の学び合いを続けていくことで、学力も定着していき、「もっと調べてみたい」「難しいことにも挑戦してみたい」といった子どもが主体的に学びに向かう姿や「みんなに認めてもらえて嬉しい」「勉強に自信がでてきた」といった自己肯定感の涵養にもつながっていくと思います。

私たち教師は、日々の授業が、子どもが主体となって学び合うものとなるよう、今後も研修と実践を重ねていきたいと思います。

<児童質問紙 その他 頗著なもの>

県平均より肯定的回答をした児童の割合が高い項目(抜粋) → 学校では

- ・分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげているか(+10.7)
- ・学級での話し合いで、自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたりできているか(+10.0)
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。(+9.7)
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいか。(+9.3)
- ・分からなかったり詳しく知りたかったりした時、自分で学び方を考え工夫しているか(+6.8)
- ・友だちの考えを大切にして、お互い協力しながら課題の解決に取り組んでいる(+5.0)
- ・学校に行くのは楽しいか。(+3.4)
- ・人の役に立つ人間になりたいか。(+3.2)
- ・先生はあなたのよいところを認めているか。(+3.1)
- ・人が困っている時に進んで助けているか。(+3.1)
- ・友だち関係に満足しているか。(+2.2)
- ・将来の夢や目標を持っているか。(+1.7)
- ・困りごとや不安なことを先生等に相談できるか。(+1.5)
- ・普段の生活で幸せな気持ちになることがあるか。(+1.1)

学習を進めていく中で、子どもたちが抱く疑問や問題意識を大切にしながら、ペア・グループでの話し合いやタブレット等を活用した調べ学習を取り入れ、子どもたちが主体となって学び合う授業を進めてきた成果が表れていると考えられます。子ども達一人ひとりが学習対象にしっかりと関わる中で持った自分なりの考えを、友だちと交流することで、自分の考えを深めたり広げたりすることに喜びや充実感を感じ、更に学習を進めていきたいと考えていることが分かります。これからも、子どもたちが主体となって学び合う授業を推進していきたいと思います。

学習以外でも、概ね、よい人間関係の中、子ども達が学校生活を送っている様子が伺えます。これからも、授業や学校生活の中で友だちと助け合ったり一緒にやり遂げたりする経験を大切にしていきます。

県平均より肯定的回答をした児童の割合が低い項目(抜粋) → 学校では

- ・自分にはよいところがある。(-1.0)

子ども達の姿をしっかりと把握し評価していくことで、子ども達の自己肯定感を高めるよう取り組んできましたが、今回の調査で「自分にはよいところがある。」という項目については県平均を1.0ポイント下回る結果となりました。今後も引き続き、子ども達の頑張ったところや工夫したところ等を教師がしっかりと把握し、他の子にも伝えていくことを続けていくことで、集団としての成長を促し、子ども達の自己肯定感を高めていきたいと思います。